

KYOTO AYABE OITOMI AtoZ

水源の里 老 富

AtoZ



MESSAGE

「老富 AtoZ」では、老富という地域の本質はどのようなものか。また、どのような可能性を秘めているのかに焦点を当てて作成してまいりました。

作成していくにあたり、老富にお住まいの皆様のご協力とご支援を賜り、何とか形にすることが叶いました。この場をお借り致しまして、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

「AtoZ」を通して老富の持つ魅力と地域の方々の思いをお伝え出来ることを願っています。

ABOUT

老富は心が安らぐとても綺麗な自然がたくさんあります。また、地域の人たちはパワフルで、訪れた人を元気にしてくれることでしょう。人々の笑顔がとても素敵で、優しさと温かさを感じることができる集落です。

水源の里・老富
人口 43 人 24 世帯
2018 年 3 月現在



春 春先にミツマタ、続いてシャガの花が森一面に咲き誇り、神秘的な光景に出会えます。

秋 周りの山々が色鮮やかな黄、紅色に色づき始めると、本格的な秋の到来です。

夏 地域の人たちが農作業などに取り組む元気な姿にパワーをもらえることでしょう。

冬 辺り一面が綺麗な真っ白い雪に覆われると、老富は雪国へと変わります。

CONTENTS

A Antique
アンティーク

B Business Chance
ビジネスチャンス

C Camera
カメラ

D Deer
鹿

E E-Basho
居場所 [いい場所]

F Food
フード / 風土

G Gakushu-Kukan
学習空間

H Hotaru
ホタル

I Ikita-Akashi
生きた証

J Jinja & Juzu
神社・数珠回し

K Kufu
工夫

L Line
繋がり

M Mitsumata
ミツマタ

N Nariwai
生業

O Okabayashi Nobuyasu
岡林信康

P Power
力

Q "Kyu"
休

R Rice
老富米

S Shaga
シャガ

T Tochi
栃の実・栃餅

U Ukeire
受け入れ

V Value
価値

W Water
水

X X
未知、交差

Y Yuki
雪

Z Zeal
熱意



アン テ イ ク

昔からあるモノはどれも美しい。今日まで大切に使われてきた物語が色濃く残っているからだ。何一つとして同じものはない。このキズや変色。一体どんな物語があったのだろう。そんな澄んだ心で老富を訪れると、まるで絵本の世界に入り込んだかのような気が味わえる。

ビ ジ ネ ス チ ャ ン ス

老富には、栃の実や野生動物、辺り一面に生い茂る木々など、数多くの資源があり、様々なビジネスチャンスが転がっている。それ以外にも風景・知恵などを活かした体験施設や情報の発信など、考え出すと止まらないほどの潜在能力を老富は秘めている。

カ メ ラ

カメラというものは時に奇跡を収める。老富のシャガ群生地発見につながったのもまさにカメラによるものであり、観光スポットとしての地位確立へ大きく貢献した。シャガだけでなく、苔や木々を写すだけでも素晴らしい表情をしてくれる。老富とカメラは切っても切り離せない関係ではないだろうか。



D

Deer



E

E-Basho



F

Food



G

Gakushu-Kukan



H

Hotaru



I

Ikita-Akashi

山や、多くの豊かな自然に囲まれている老富という地域。しかし、自然が豊か故に抱える課題が存在する。それが獣害問題。ここには様々な野生動物が存在し、その代表的な動物が鹿だ。鹿は田畑を荒らし、新たに育つはずだった木の芽を食べてしまう。元気な動物達に対抗するためには新たな力が必要だ！

鹿

皆さんはどんな居場所をいい場所だと思いますか？私たちは住民の人達と挨拶を交わし、何気ない世間話を毎日のようにすることができ、平凡だけど安心を感じられる場所がいい居場所だと感じられます。老富では自分の居場所を肌で感じることができます。老富地区の一員となってみませんか？

居場所「いい場所」

「このご飯美味しい」老富で味わうことのできるFoodは、都会のレストランとは違った良さがある。それもただ美味しいというだけでなく、その土地にだけ見られる住民の生活や文化などの背景を感じることができる。言うなれば私たちはFoodと風土を同時に味わっているのかもしれない。

フード／風土

住民の持つ知恵であったり、技術であったり、教科書には載っていないような知識がここにはたくさん詰まっている。そこでの景色や住民の生活様式から日本が忘れかけている本来の姿を思い出させてくれる。老富は私たちにも教材を、いや、学習空間を提示してくれる存在とも言えるのではないだろうか。

学習空間

都会とは違い余計な光がないためにきれいに星が夜空に映し出され、きれいな水が流れる川の近くには夜を照らす多くのホタルが存在する。しかし、ホタルが素早いカメラマンでも撮影することが困難だ。そんな難しい写真撮影に挑戦してみたいか。

ホタル

時代は流れ、老富も様々な変化を遂げてきた。住民の方からはもちろん、過去から今にある自然や家屋からも生を感じることができる。新しいものを取り入れるばかりの若者が既存の事物にどう向き合い、取り組んでいくかが、これからの地方創生の手がかりになるのではないか。

生きた証



Jinja & Juzu



Kufu



Line



Mitsumata



Nariwai



Okabayashi
Nobuyasu

大唐内、栃、市茅野の三つの集落にはそれぞれ神社があり、季節ごとに祭が行われてきた。弓の名人が大蜘蛛を退治した伝説にまつわる聖神社（大唐内）の甘酒講という祭や、栃の集落の大きい数珠を皆で回す数珠回しなどが今も受け継がれている。行われなくなった祭もあるが、形を変えつつも地域の人を繋いでいる。

神社・数珠回し

この地では、今なお自然や動物が多く生き残っており、共存して今も存在している。時には自然が牙をむくこともあり、「共存する」というのは、言葉では簡単であるが、それを実現するのはとても難しいことだ。だからこそこの地で生きるための住民の知恵や工夫が施されている様子は舌を巻く。

工夫

かつては、雪かきや田植えなど共同作業、助け合いなどで様々な困難を乗り越えてきた。しかし、人口減少や機械化など、様々な要因が重なり、助け合いの文化は今も残っているものの希薄になりつつある。しかし、新しい人が入ることによりかつての良さを取り戻せるのではなかろうか。

繋がり

老富にはミツマタの小さな黄色い花が杉林一面を埋め尽くした群生地があります。例年、3月下旬から4月中旬になると見頃を迎えます。その光景はまるで黄色い絨毯を敷いたかのような幻想的な雰囲気を感じ出します。

ミツマタ

生業とは生活を営むための仕事という意味。かつてこの地域で行われていた炭焼き、畑仕事、桜の木の皮細工…ここでの仕事というのは、生活と深く結びついていた。仕事の意味が問われるようになってきている現代で、「生業」は私たちの生活に改めて向き合うキーワードとなるのではないだろうか。

生業

「フォークの神様」岡林信康さんはかつて、老富町栃に空き家と田を買って農業生活を送っていた。当時、村の人はそうとは知らず、ロン毛でギターを爪弾く「変わった人山岡さん」と思っていたが、なんとあの岡林信康さんだったと新聞で知りビックリ。以降、「岡林さん」と呼ばれるようになった。

岡林信康



P

Power



Q

"Kyu"



R

Rice



S

Shaga



T

Tochi



U

Ukeire

年を取った。だからといって年齢を言い訳にしたくない。ここ老富をよりよくしていきたい。その思いが私たちを団結させ突き動かしてくれる。若者にだって負けない。そんな元気を感じ取ってほしいです。

力

休まる場所。安らげる場所。車通っても少なく、聞こえてくる音は風に揺られて聞こえる。木々のせせらぎやカエルや虫の鳴き声。ここ老富では、普段聞こえてくる騒音は切り取られ、この静かな土地で日々の疲れを癒してくれる。

休

お米で有名な産地はたくさんあるけど、私たちの老富米だって負けちゃいない。美味しさはもちろんのこと、一粒一粒に丹精を込めて作り上げた、"思い"という名の味を実感してほしいです。

老富米

老富で数年前から見られるようになった新絶景スポット。見ごろは4月下旬～5月中旬で、杉林の間を400万本もの白いシャガの花が地面を埋め尽くすように満開に咲いている光景は、まるでおとぎの国の世界に迷い込んだかのような絶景です。

シャガ

栃の実実は昔から老富で栃餅として親しまれてきた。栃は強いアクを持ち、伝統のアク抜き技によって食べられるようになる。手間暇かけて作られる栃餅は独特の風味を持つ。今では栃の実を使ったチョコレートも作られている。新しいものと組み合わせ、伝統技術は継承されていく。

栃の実・栃餅

老富に住む人々は、優しくそして温かい。老富では常に人とコミュニケーションができ、新しくやってきた人にも孤独を感じさせない。だからこそ私達は安心して老富を訪れることができる。これは他の地域と比較しても明確に良い点として誇ることができる文化ではなかろうか。

受け入れ



V
Value



W
Water



X
X



Y
Yuki



Z
Zeal

PICK UP!

／ 栃の実が
チョコレートに！ ／



ショコラ・ド・マロニエ老富

チョコの甘さと老富産栃の実のほろ苦さが合わさり、お酒に合うちょっぴり大人の味のチョコレートが誕生。その名も「ショコラ・ド・マロニエ老富」。2018年11月1日に初目見え。老富の定番商品になるかも。

地域本来の価値とは何か？食べ物がおいしい、自然がきれい、観光スポットがある。こういったものも大切であるが、これらの背景には常に人と人とのつながりが存在し、外部からは容易に見ることができない。地域の人の内面にあるもの自体が、今後地域を色づけていく資源として大きな価値となっていく。

価値

老富には水と関係するものが多く、「水源の里条例」という条例の名前にも「水」が使われている。また、山から流れている水はとてもきれいで飲めそうなほどだ。これから水が不足していく社会において、水源の里の水はとても貴重なものとなるであろう。

水

そこには多くの自然や資源が存在する。その中にはいまだ活用しきれていないものも数多い。老富は無限の可能性を秘めており、それを活かすことで新たな地方の形としてのモデルになるかもしれない。またそこで新たな地域との交流が生まれ、地域同士が交差をしていく。老富はそれを描く筆となるだろう。

未知・交差

老富は市内でも雪がとて多く降り積もる地域。昔は自分たちで竹を切りスキー板を作りスキーをするなど、様々な雪遊びをしていた。また、雪の中に野菜を保存していた。それは野菜が凍らない、腐らない、乾燥しない、動物たちに食べられないための生活の知恵である。人々は雪と共存して暮らしている。

雪

地域が一丸となつて何かを変えようとすることは、実は一番難しいことであり、勇気のいることである。しかし老富には確かに何かを変えようとする思い、いくなれば熱意が存在している。こういった熱意のある地域こそ、未来の日本へ大きな影響を与えるのだと私たちは信じている。

熱意

MEMBER



渡辺 剛
(水源の里・老富)

「水源の里・老富」では、地区3集落が力を合わせて、ふるさとの魅力づくりとその発信に取り組んでいます。過疎・高齢化などによる課題は山積状態にはありますが、少しでもこの豊かな自然を守り、後生に伝えられればと想っています。



芦田 晴哉
(京産大 滋野ゼミ)

老富には心安らく綺麗な自然がたくさんあり、他では味わえない素敵な空間が広がっているなど感じました。そして、住民の方々からも若者に負けないぐらいのパワーや団結力が感じ取れ、自分にとって良い刺激になりました。



渡辺 美代子
(水源の里・老富)

水源の里の活動も大変です。活動を広げるにも人がいない。現状維持が大変ななかで人を増やすとなると地元から出て行かれた人に帰ってもらうことが一番いい事と思いますが若い人はなかなか難しいですが人口を増やすとなるとU・Iターンの人を頼ることになると思いますがそれぞれの生活を考えて1ターンで来る人も大変だと思います。



山名 恒輝
(京産大 滋野ゼミ)

老富町に訪れ、魅力的な町だと感じました。人々の優しい人柄、美しい自然などが存在するため、静かで住みやすい環境が整っていると思います。このような町をもっと他地域へ発信していくべきだと思います。



大西 うてな
(京産大 滋野ゼミ)

老富町では、伝統や自然だけではなく、地域の人の繋がりがりやパワーといった人の力にも魅力があると感じました。これらの老富町の魅力は次の世代に伝え、大切に守るべきものだと思っています。



西田 昌一
(水源の里・老富)

老富は、地域住民がひとつになって特産品の製造販売をし、又、この地を訪ねて下さる方々を地域挙げて、お迎えをしまして、この地にU・Iターンを希望される方は、快く受け入れさせて頂く準備もできてます。乞うご期待!!



西山 功祐
(京産大 滋野ゼミ)

老富町に関わる中で感じた事は人の温かさ笑顔が素敵な町ということです。地域の繋がりが薄れてきている世の中で人の温かさを感じられる老富町のような地域は今後重要になってくると感じました。



酒井 千恵子
(水源の里・老富)

典型的な高齢化地域であり、これ以上の若返りも望めないかもしれませんが、その分一人ひとりが元気なことは有難いことです。10年前と比べて活動の面、意識の面向上していると思います。これからは外部からの若い息吹を頂き私たちの希望、力に替えたいと思います。



西田 愛子
(水源の里・老富)

老富は、自然の恵みを受け、美味しいお米がとれることが魅力の一つです。また特産品作り等何事も住民皆が協力して取り組むことができる。U・Iターンを快く受け入れ、共に支えあって、現代社会に対応しながら生活できる集落でありたい。



寺井 彰
(京産大 滋野ゼミ)

老富町を訪れて初めに感じたのが自然の多さと綺麗なです。私の住む地域や都会の方では見られないような景色がある、そういった地域こそ今後日本が残していくべき姿だと感じました。



城戸 優希
(京産大 滋野ゼミ)

日本は現在、とても厳しい状況にあります。今の日本にとって必要なモノは日本本来の姿を維持している地域にほかなりません。老富町はまさにこれを体現したかのような地域だと強く感じました。



滋野 浩毅
(京都産業大学教員)

老富の集落の方々には地域の魅力づくりに、特産品の開発にと前向きなことに驚かされました。また、集落を歩いたり、お話を伺ったりする中で、移住者に、そして次の世代へと受け継いでいくべきものがたくさんある、という思いを強く持しました。

What's 水源の里 AtoZ

平成19年、全国に先駆けスタートした「水源の里」は、平成29年に3回目の条例改正を経て、更に活動を拡大しています。「水源の里 AtoZ」は、学生の目線から見た「水源の里」を、1冊の小冊子にまとめたものです。

学生は繰り返し集落を訪れ交流を重ね、地元の方々はいこれまでの集落の歴史・魅力を見つめ直し、両者が力を合わせ、この「集落の名刺」を紡ぎ出しました。これからも「水源の里 AtoZ」をはじめとした農村都市交流、水源の里集落と外部組織との連携事業を推進していきます。

水源の里・老富 AtoZ

発行日 2019年3月1日

制作 京都産業大学現代社会学部 滋野ゼミ

芦田 晴哉
大西 うてな
城戸 優希
寺井 彰
西山 功祐
山名 恒輝

協力 水源の里・老富の皆様

滋野 浩毅（京都産業大学現代社会学部教授）

塩見 直紀

（半農半X研究所、福知山公立大学准教授、総務省地域力創造アドバイザー）

滋野 正道（龍谷大学文学部プロジェクトアシスタント）

発行 あやべ水源の里連絡協議会

（綾部市役所定住・地域政策課 上林いきいきセンター）

京都府綾部市八津合町上荒木 5

TEL 0773-54-0095 MAIL teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp

HP <https://www.city.ayabe.lg.jp/>



あやべ水源の里 Facebook ページ

水源の里の「今」をお届け。

イベント情報や水源の里の四季をどこよりも早くお伝えします。



京都・あやべ

水源の里

Villages at the source
of a river in Ayabe, Kyoto